

チャンドラゴーナ会報

バングラデシュの人々と共に歩む宮川医師夫妻を支える会

第3号 (チャンドラゴーナからの通信、帰国報告会)

2007年1月1日 No. 3

URL: <http://chandranet.nngo.jp> E-mail: Sumi3Ngo@aol.com

クリスマス・新年のごあいさつ

宮川眞一・理世

Merry Christmas!

クリスマスおめでとうございます。

私達にとってはチャンドラゴーナで過ごす最初のクリスマスです。とは言っても気温は20度前後、それでも朝夕は寒く感じて長袖一枚では辛い感じです。20日から、病院・教会関係のいろいろなクリスマス行事が始まりましたが、今年は主賓で呼ばれることも多くて、少し緊張しながらの今日この頃です。

昨日は看護学生たちが中心になってハンセン氏病センターを含め各病棟を讃美歌を歌いながら回りました。日本のキャロルとは全く違って、例えると「盆踊り」のノリに近くて圧倒されてしまいました。日本で同じ事をやると、きっと患者さんからクレームがでるでしょう。今日24日はクリスマスキャロル、25日のクリスマス特別礼拝の後は、1日中各家庭にお邪魔して食べまくるそうです。小食の我々には少し不安です。

さて、バングラ国内は来月の選挙を控え国内状況は相変わらず不安定ですが、2・3ヶ月前の政党間の武力衝突は少し落ち着いて来ています。

プロジェクトの方も今月から各村を回るモバイルチームがスタートしました。チームは医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師とプロジェクトのコアチーム、それに以前お話ししたBMW(村で保健師さんのような仕事をする、当院でトレーニングを受けた女性)で構成されています。

現在のところ2箇所を週各1・2回まわっています。患者さんは40 80人ぐらいですが、なかなかスムーズに事が運ばず、全体をコーディネートする役目の私は、声をからしながら、少しずつ改善を加えている状態です。私も少し患者さんを診察していますが、「お金がないから病院にも行っていない、薬も買えないでいた。」という人が多いのが実情です。薬の種類も限られ、検査も最低限のものしか出来ませんが、初期段階で介入できることは意義深いと考えています。

現在の所、モバイルクリニックでは、受付料5



TK(10円くらい)と薬代の50%のみを徴収し、診察代、検査費用はプロジェクトの寄付金でまかっています。この収入は、今後ここに医療共同体のようなものを作っていくための基礎資金としてプールしています。又BMWの給料も現在はプロジェクト費から出ていますが、将来的には、この医療共同体がまかなくていけばと計画しています。広大な構想で、実際はなかなか難しいでしょうが、少しでも理想に近づければと祈って日々努力しています。

もちろん早期発見・早期治療以上に予防医学的アプローチも欠かせない要素です。患者さんの待ち時間には、紙芝居を利用して環境衛生教育も行っています。これと並行して、別日に楽しみながら学べるように村での環境衛生をテーマにした劇を興行して啓蒙活動も開始しています。今月は2箇所で行いましたが、盛況でした。

問題は山積ですが、まずは、なかなかの滑り出しだと思っています。そんなこんなで充実した日々を送っております。

年の瀬、皆様忙しい日々かと存じますが、良いクリスマス・新年をお迎えください。

関西でお祈り会開催

12月10日神戸栄光教会で開催しました。讃美歌21の444番を歌い、マルコによる福音書6章30~44節を拝読し、白井進牧師よりメッセージを頂きました。その後、参加者全員で、チャンドラゴーナの活動、バングラデシュの国内選挙等に思いを馳せてお祈りをして、主の祈りをもって会合を終えました。次回は2007年2月25日、会場は甲子園教会です。(世話人・元JOCS関西事務所スタッフ 榎木恵子)

「クリスマスに思うこと」

宮川眞一

Nkkon Chakma は17歳の男性、突然下肢から始まった脱力は、その日の内に上肢に至り、来院時は、構語障害も出現していた。シニア医師からチッタゴン医科大学への受診がすすめられていた。家族は民間療法・ハーバル・メディスンの適応を主張。Guillain-Barre 症候群を疑った私は、少なくとも、ここで出来る除外診断検査を主張し家族に説明をし、入院を継続。翌日早朝、呼吸困難から意識混迷状態となり挿管。一命はとり止め、意識も回復。管は抜けないが自発呼吸は可能であったが、その夜、呼吸不全で死亡した。

キリスト教病院でありながら、診察もせず医大に送ろうとする医師、救急処置も不慣れなスタッフ、忙しくも無いのに呼吸困難状態に気付きもしないナース。残念なことに現在、病院全体の雰囲気は「日常の死」と「安易な諦めの意識」に慣らされているように思える。

人工呼吸器も無い当院で出来ることには無制限がある。特殊な治療薬も手に入らない。救える命が救えなかったと落ち込む私に院長は意味深に「ここでは命は安価なのさ、出来ることは限られる」と言った。しかし、何か違うと思う。「愛」は真理を喜び、信じ、望み、耐えること・・・地域医療の現場は、もっと過酷な状況である、そこに踏み出そうとする病院スタッフと共に、その姿勢の中に「愛」の意識を忘れないでいたい。

(JOCS 会報「みんなで生きる」12月号所収)

[チャンドラゴーナ通信 3] 2006/10/13



皆様、日本での報告会の際は大変お世話になりました。又、久々に何人かの方にはお会いすることができ嬉しく思っております。バングラに戻り、あっという間に1ヶ月が過ぎてしまいました。

この間、プロジェクトの方は、BMW (Basic Medical Worker : 自分の住んでいる村で保健師さんのような仕事をする女性) の1期生の2ヶ月にわたるトレーニングが終了し、2期生のトレーニングが始まったところです。相変わらずデスクワークや会議が多い毎日ですが、勢力的に病棟にも顔を出すようにしています。プロジェクトの内容については、次回にでもご説明させていただこうと思っております。

さて、今回は病院付属の看護専門学校について、少しお話しさせていただきます。この学校はバングラデシュ看護協会認定校で社会的マイノリティーの支援を目的に1935年開校されました。SSC という中等教育終了後受験が可能です。全寮制で現在学

生は約70名、3割が男子、7割が女子です。宗教的には6割のクリスチャン、仏教徒、ヒンズー教徒が2割ずつという構成になっています。資金的に運営は苦しく、3年前までは、すべて無料だった学費・寮費も今は1ヶ月500タカの自己負担になっています。そのため、けっこう苦しい状態におかれている生徒もいると聞いています。

現在、CHCの病棟スタッフナースは12名しかいないため看護学生の存在が病院運営の要となっています。しかしながら残念なことに実習教育は充実しているとは言えず労働力の一部としての役割が大きくなってしまっているのが実情です。

私は、病棟でスタッフナースよりも看護学生たちと関わることが多い訳ですが、本当に素直な良い子たちが多く、最近は慣れてきてベンガル語の間違いを気軽に直してくれたり冗談で笑わせてくれたりしています。しかし、病棟では、なかなかゆっくり時間が取れないため、先日から週1回の割合で10名くらいずつ夕食に招待することを始めました。

約束の時間より1時間も早く来た女子学生たち、時間がわからなかったと呼びに行くまでやってこない男子学生たち、いかにもバングラチックな始まりでしたが、和んでくると歌有り、踊り有り楽しい時間を過ごすことができました。プログラムは理世のアロマを使った性格判断、日本に関する基礎知識クイズ、すこしまじめにJOCSの紹介・日本の病院様子を写真で紹介などを行いました。一番盛り上がったのは「Dhoom machaale」というインド映画の曲をかけた時で、歌いながら一緒に踊ってしまいました。気付いたのは、彼らはソファーやイスよりも、やっぱり地べたに座り込むのが一番落ち着くようだという事です。結局、最後は、みんな車座になっていつの間にか座っていました。少し失敗したのは、味をコックが私達の味覚に合わせたままだったので、塩・唐辛子の要求があったことです。お米も余ってしまいました。魚は大好きみたいで速攻でお皿は空。次回からは、上手く調整していこうと思います。

次の日からは、これまで以上に病棟でのコミュニケーションはスムーズになり居心地よく仕事ができています。学生に限らず、病院外での交流が相互理解には重要であることを認識させられる夕食会でした。しばらく継続予定です。 宮川眞一

[チャンドラゴーナ通信 4] 2006/10/17



新聞・TV 報道等で、皆さんもご存知のことと思いますが、ノーベル平和賞を受賞されたムハンマド・ユヌス氏について書きます。

氏はバングラデシュ出身としては一人目、ベンガル地方出身としては三人目のノーベル受賞者になり

ます。担保なしに村人（特に女性）が連帯責任をとることで融資が受けられる「マイクロクレジット」を考案し「グラミン（農村）銀行」を設立しました。

「返済が伴わない援助は人間の尊厳を傷つけ、人々は自助努力や自己責任を忘れがちになる」と主張し、その方法は途上国開発の模範とされてきました。融資回収率は9割を超えるといいます。

今、この時代にバングラデシュから、しかも経済面アプローチの開発 NGO に携わる人物に平和賞が贈られたことを大変嬉しく思います。

翌日のバングラの新聞は「Yunus makes Nation Proud(ユヌス氏は国の誇り)」とトップでとりあげ、各社の広告も氏の偉業を讃えるものでした。報道番組も氏の会見やショヒドミナル（言語運動犠牲者の碑）参拝などを放送していました。今日15日の新聞でも1976年最初にグラミンから融資を受けたマリム・ビビという70歳の女性のコメントが取り上げられていました。

さて、ここからは裏話。今年4月ユヌス氏は2人の娘さんと共にうちの病院を訪問されていました。というのは、氏の自宅はチッタゴンにあって、長女のモニカさん（現在アメリカ在住）は、うちの病院で生まれました。今回は、モニカさんが自分の生まれた病院を見てみたいとの希望で、いらっしやっただけです。当日は歓迎会に加え、病院の活動紹介、現在私が携わっているプロジェクトの説明も行われ、共感されていたといいます。

現在、こうやって私がメールでこのチャンドラゴナから情報を発信できるのも実はグラミンフォンというグラミン銀行関連携帯電話会社のシステムを利用してきているからです。グラミンは、この分野でも大成功を修めています。反面グラミンは大企業化してしまい一部批判もされているのは事実ですが、設立当時のユヌス氏の姿勢は、これからも NGO に関わる全ての人の良き指標になり続けると思います。

宮川眞一

[チャンドラゴナ通信 5] 2006/10/29

皆様、いつもご支援ありがとうございます。日本はもう肌寒い気候になっていることと思います。お元気でしょうか？ダッカからチャンドラゴナの病院へ移ってから5ヶ月が過ぎました。おかげさまで私達はふたりとも大きい病気をすることもなく、健康で過ごしています。病院と村の生活にも慣れてきました。

コックさんのレパートリーも少しずつ増えてきて食生活も少し充実してきました。冬は手に入る野菜の種類が豊富になるのでこれからが楽しみです。先日はこちらの里芋を使って「そばろ煮」まがいを作ってみました。なかなかの味に仕上がりました。バングラデシュに来てからは、食の重要性を痛いほど感じさせられます。

おととい、ジア首相の任期が終わり、選挙前の今、こちらでは政治的に不安定な日々が続いております。バングラデシュ中でデモやストライキがおこり、毎日けが人や死人が何人もでている状況です。こち

らもチャンドラゴナから、第二の都市チッタゴンへ行く道が昨日から封鎖され様々な人の生活に影響を及ぼしています。

このような状態が後どれくらい続くのだろうと少し心配ですが、とりあえず、チャンドラゴナの病院周辺はいつもどおり静かな日々が続いておりますので、ご心配頂きました皆さま、ご安心下さい。

では、皆様お元気で。また、近況報告いたします。

宮川理世

ティキ・ティキ

おとなの手くらの大きさで、長いしっぽに、手足が4本、黒い目に、からだの色は茶色かたり黒かたり、あたまでっかちだけどすばしっこい動き、かべでも天井でもスルスルっとはい上がり、逆さまになってもおちず、「ティキ ティキ ティキ！」と鳴く・・・この動物はなんでしょう？

答えはバングラデシュの家の中ではかならず見かける「ティキティキ」です。日本でいえば「やもり」や「とかげ」に近い動物です。ティキティキは急に頭の上に落ちこちて人をおどろかしたり、そこらじゅうにウンチをしたりする厄介者です。でも、こんな厄介者も家にはいつてくる害虫を食べて家をまもってくれます。さらに、ティキティキの鳴き声からおもしろい話もあります。ティキティキの「ティキ」はベンガル語で「正しい」という意味の「ティック」に似ています。仕事のような大事ななしをしているとき、自分が話しているときにティキティキが鳴くと「ほら、ティキティキも私のことを正しい、正しいって言ってるよ。」という相手信用してもらい話もスムーズに進むそうです。

とにかくティキティキはバングラデシュの家にはなくてはならない存在のようです。

今日もまたどこからか、「ティキ ティキ ティキ」と、聞こえてきます・・・。

宮川理世

(JOCS 会報「みんなで生きる」11月号子ども版所収)

宮川医師夫妻一時帰国報告会

2006年8～9月



8月に一時帰国した宮川眞一医師・理世夫妻が、滞在期間中、宮川医師の関係の深い4箇所（出身地愛媛県松山にて日本キリスト教医科連盟総会・四国民舞の会総会、青春時代をすごした関西のJOCS事務所、医師として働いた福岡で福岡徳洲会病院・福岡女学院教会、派遣元 NGO 事務局の東京）にて報告会を開催いたしました。多くのご支援の方々へ感謝の挨拶と、現地の活動を映像で報告いたしました。詳細はホームページでご参照ください。

*** **バングラデシュとは** ***

インドの東隣、ガンジス河下流、亜熱帯モンスーン地帯。国連で定める最貧国のひとつで、貧困撲滅、保健衛生・教育などの開発が求められています。
 人口 約1億4千万人 (日本 約1億2700万人)
 面積 約14.4万k㎡ (日本の本州程度、日本37.8k㎡)
 人口密度 1,019人/k㎡ (日本337人同比)
 言語 ベンガル語
 宗教 イスラム教 86.6% ヒンドゥー教 12%
 経済 ジュート、米、茶を中心とする農業国。
 財政支出の半分近くが外国からの援助。
 最近縫製品、革製品、冷凍魚類の輸出増化。
 GNP 400米ドル/一人年 (日本33,550米ドル同比)
 平均寿命 62歳 (日本82歳)
 5歳未満児死亡率 69人/出生1000人 (日本4人同比)
 医師数 2人(人口1万人対) (日本19人同比)
 識字率 男49% 女30% (日本男女99%以上)
 (出展:「ユニセフ世界子供白書2004」他)

チャンドラゴーナ (Chandraghona)



宮川眞一 (みやがわ しんいち) さんプロフィール

1959年愛媛県宇和島市生まれ。同郷の故岩村昇氏(元JOCSネパール派遣医師)に影響を受け、海外医療協力を志す。宇和島東高校、関西学院大神学部、徳島大医学部卒業。福岡徳州会病院勤務。2005年9月赴任。

宮川理世 (みやがわ みちよ) さんプロフィール

長野県飯田市生まれ。13歳より英国に滞在。カナダ・ヨーク大学、英国サセックス大学院卒業後帰国。松本市の医療機関に勤務。宮川眞一さんと結婚し福岡に在住。赴任に伴いバングラデシュへ同行



右は現地の人が書いた二人の絵です。日常こうした服装で生活している訳ではありませんが、顔はそっくりです。

「チャンドラゴーナ会」は宮川眞一医師・理世夫妻のバングラデシュ南東部チャンドラゴーナでの、地域医療活動を推進するために必要な支援活動とその広報、募金活動等を行います。

「チャンドラゴーナ会」の目的、

- 1) 宮川夫妻の働きを覚え、祈りによって支え
- 2) その働きを通じて現地の人々への理解を深め
- 3) その支援を通じて、国際医療協力に連なる。

本会の活動の趣旨・目的をご理解いただければ、誰でも入会できます。現地の活動を随時ホームページや会報でお知らせし、報告会・学習会等行います。

ホームページ <http://chandranet.npgo.jp>

支える会ブログ <http://blog.livedoor.jp/hqc00330>

会員の情報共有のためのメーリングリスト(ML)「Chandra-net」を開設しています。

どうか会の目的、趣旨を理解していただきより多くの人たちの支援・ご協力をお願いいたします。

入会案内

活動内容

現地活動支援、報告会・学習会等開催、会員募集、会報作成・印刷・発送・IT関連管理等

年会費 (会計年度 7月1日～翌年6月30日)

原則派遣期間3年間(以降継続可能性有)

- ・ 会 員 3,000 円
- ・ 賛助会員 一口 1,000 円
- ・ 学生会員 一口 1,000 円
- ・ 維持会員・団体会員 一口 10,000 円

会費・ご寄付の送金方法

- 1) 郵便払込 郵便振替口座 01750-7-77534

加入者名: チャンドラゴーナ会

- 2) 銀行振込口座

東京三菱銀行福岡支店 普通預金 2121511

チャンドラゴーナ会代表角正信(スミ マサノブ)

現地住所: チャンドラゴーナ・キリスト教病院

Christian Hospital Chandraghona (CHC)

Chandraghona-4531, Rangamiti Hill Tracts,

Bangladesh E-mail: miyapyon@mac.com

派遣:(社団)日本キリスト教海外医療協力(JOCS)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-33

TEL 03-3208-2416 FAX 03-3232-6922

<http://www.jocs.or.jp> info@jocs.or.jp

事務局より 宮川夫妻の現地での本格的稼働の様子が、この会報でよくうかがえます。今年が、宮川夫妻を通してバングラデシュの人たち、また支援をされている人たちにとって、よき年でありませうお祈りいたします。

編集・発行: チャンドラゴーナ会事務局

「バングラデシュの人々と共に歩む宮川医師夫妻を支える会」
世話人代表 角 正信(すみまさのぶ)

〒811-1111 福岡市早良区脇山 1-15-12

国際多文化共生研究所内

URL: <http://chandranet.npgo.jp>

E-mail: Sumi3Ngo@aol.com

TEL 090-5925-1940 FAX: 092-804-2632

